

日本創造学会論文誌テンプレート（タイトル部）

2022 年 3 月 22 日版（サブタイトル部）

Template file for Journal of JCS: Ver. 13th Jul. 2020

第一 著者名¹ 第二 著者名²

Author NAME1 Author NAME2

[要旨]

ここには論文要旨を記述する。要旨では段落を構成しない。よって字下げもしない。要旨には、動機・目的・方法・結果・結論などを 400 字までで簡潔にまとめる。基本的に過去形でなく、現在形（現在時制）を用いる。

[Abstract]

The abstract begins here (Maximum length: 150 words).

キーワード：キーワード 1, キーワード 2, キーワード 3 5 個まで

Keywords: AAA, BBB, CCC, DDD 英字のキーワード

1. 見出しレベル 1 の例

本文は和文を原則とし、英数字は半角で記述する。句読点には「、」「。」を用いる。本文中の見出しは第 3 階層までを基本とし、それ以上は用いない。

1.1. 見出しレベル 2 の例

1.1.1. 見出しレベル 3 の例

見出しレベル 3 の本文例である。段落を変える場合は、空行を入れて記述する。

1.1.2. 言語・用紙サイズ等

原則として和文を用いる。著者が日本語を母語としない場合は、英文でも構わない。用紙サイズは、A4 とし、上下左右余白は 25mm とする。和文の場合 1 行 45 文字（英文の場合は 1 行約 16 words）とし、1 ページあたり 40 行とする。句読点には「、」「。」を用いる。また特別な理由がない限り、英数字は半角とする。最大ページ数は 20 ページとする。原稿は基本的に最終稿をそのまま印刷（出版）する。

1.1.3. タイトル・著者名・要旨・キーワード部分について

タイトル部分には「和文タイトル」（必要があれば副題）、「英文タイトル」（必要があれば副題）を示す。著者名は第一著者から第 n 著者までを全角スペース区切りで示す。

複数の著者を記述する際、1 行におさまらないときには適宜改行する。著者名に上付きで数字を示し、

¹ 第一著者の所属組織名（日本語） 住所（日本語）

第一著者の所属組織名（英語） 住所（英字）

² 第二著者の所属組織名（日本語） 住所（日本語）

第二著者の所属組織名（英語） 住所（英字）

論文 1 ページ目の脚注として著者の所属組織名（日本語）と住所（日本語）、改行して所属組織名（英語）と住所（英語）を示す。複数の著者で、所属と住所が共通する場合は、同一の上付きの番号を用いる。一人の著者が複数の所属組織に属している場合は、上付き番号を半角カンマ区切りで複数の所属組織分示す。

[要旨] 部分に、要旨を 400 文字までで簡潔にまとめる。要旨では字下げせず、段落も構成しない。日本語の要旨の下に [Abstract] 以下に、150 words までの英文のアブストラクトをまとめる。日本語と同様、字下げせず、段落も構成しない。

[要旨][Abstract] の下に、日本語のキーワードと英語のキーワードを記述する。日本語のキーワードは全角のカンマ「,」区切りで、また英語のキーワードは半角カンマと半角スペース区切り「,」でそれぞれ 5 つまでを上限する。以下は、フォントや配置に関してまとめたものである。

- タイトル：和文タイトルは 18pt、英文タイトルは 12pt、いずれも太字
- 著者名：12pt、太字
- 要旨・Abstract：10.5pt、段落なし、字下げなし
- キーワード・Keywords：10.5pt、段落なし、字下げなし

2. 図表

本章では、図、表、参考文献の書式例を示す。

2.1. 図の挿入

図を挿入する場合、図番号と図キャプションを挿入する図の下部に示す。図番号と図キャプションは、全角コロン「:」で区切る。テンプレートの画像を用いて用例を示す（図 1）。



図 1：ここに図キャプションを入れる

2.2. 表の挿入

表を挿入する場合、表番号と表キャプションを挿入する表の上部に示す。表番号と表キャプションは、全角コロン「:」で区切る。以下に用例を示す（表 1）。

表 1：ここに表キャプションを入れる

都道府県	スープの種類	麺の太さ (mm)
北海道	みそ	2.0
東京都	しょうゆ	2.1
福岡県	とんこつ	1.0

3. 参考文献

参考文献は、文中に [n] として示す。たとえば、学力と創造力には、相関はない [1]。文中で参照した文献のみを一覧として、文章末に章を立てて参考文献として示す [2]。参考としたページが複数に渡るときには「pp.」、1 ページのみのときには「p.」とする。その他、参考文献を示す際の書式は、参考文献リストの例を参照すること [3, 4]。ちなみに、第 41 回日本創造学会大会の予稿集 [5] も、参考文献の例として挙げておく。

(20XX 年 0X 月 XX 日受付)

(20XX 年 0X 月 XX 日採録)

参考文献

- [1] 創造 太郎・発想 二郎 (2020) 「創造性とマネジメント」『日本創造学会論文誌』 1, 1, pp. 1-20.
- [2] Taro Sozo, Jiro Hasso (2020) “Creativity and Management”, Journal of Japan Creativity Society, 1, 1, pp. 1-20.
- [3] 川喜田 二郎 (1967) 『発想法－創造性開発のために』 中央公論社, p. 21.
- [4] 高橋 誠・日本創造学会 (2020) 『実例で学ぶ創造技法』 日科技連出版社.
- [5] 日本創造学会 (2019) 「第 41 回日本創造学会研究大会」
<http://www.japancreativity.jp/conference/41st/index.html> (最終閲覧日：2020 年 4 月 17 日)